

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	建物火災現場における梯子登梯中に発生した空気呼吸器ボンベ落下事故
3. 体験した事例の中心的要素	火災発生建物は地下1階地上2階で1000㎡以上あり、開口部から噴出する黒煙の多さに圧倒される中での消火活動の初期段階で発生した器具の使用直前点検不足の人為的ミスである。受傷側の機敏な対応で事故に至らなかったが、隊員の点検不足装備器具が、他隊員の転落事故等を引き起こすところであったものである。
4. 体験した事例の原因・理由	迅速活動が要求される火災現場ではあるが、器具の使用直前点検を怠ったこと。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 7 年 12 月 6 日 午前 10 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：市清掃センター粗大ゴミ処理施設破砕機ベルトコンベアから出火建物火災
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、飛来・落下ぶつにぶつかる、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動初期、 [耐火造建物、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	部署・筒先配備、進入、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[21]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[3] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[30]歳、 勤続年数[12]年、 現場経験年数[11]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

.....

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A, B, その他 1 名	2 連アルミ 梯子を伸梯し, 出火建物の黒煙が噴出して いる 2 階開口部へ架梯する。	その他 1 名は, 架梯の保持 確保をする。
経過 2	B	空気呼吸器を着装, 筒先を持って登梯する。	
経過 3	A	放水筒先補助のため, 空気呼吸器を着装し B に続き, 登梯する。	
経過 4	B	A, B が 2 連梯子の中ほどに登梯中, B の背負ってい る 8? 空気ボンベが, 突然, 落下してくる。	
経過 5	A	顔面直撃寸前, 頭を右に振り, 落下ボンベを回避する と同時に左手でかろうじて受け止める。	
経過 6	A, B	放水態勢を一時中止し, 2 名そろって体勢を保持した まま, 梯子を何とか降りる。	
経過 7	A, B, その他 1 名	ボンベ固定部の破損・不備がないことを確認し, 締め バンドを固定・ロックする。	
経過 8	A, B	再度, 固定ロックを点検後, 再登梯し, 消火活動を行 う。	
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。周囲の視界が確保できていた。その他：顔を上げ、前の登梯者を見ていたため、ボンベ落下を視認できた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

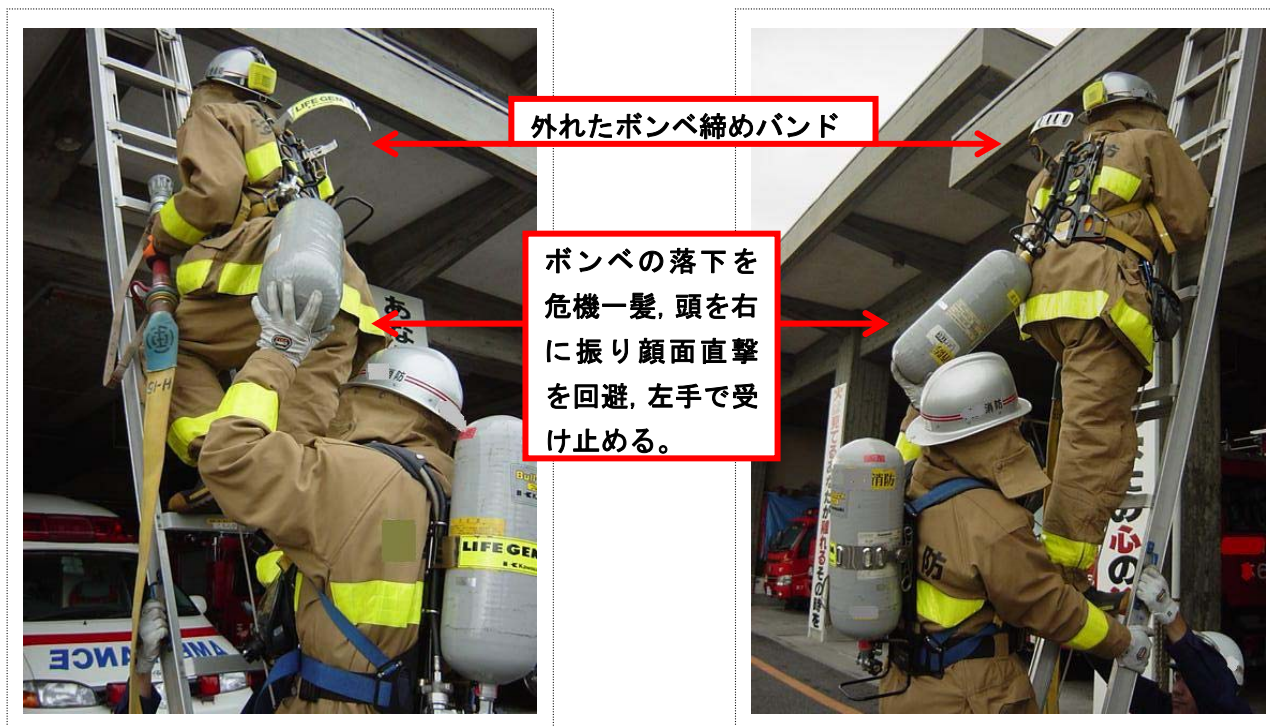
・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：資機材の点検不足。

ヒヤリハット事例 建物火災現場活動中の空気呼吸器 8ℓボンベ脱落（再 現）



・発生日時 : 平成7年12月6日 午前10時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		隊員／消防士 ・年齢 21 歳 ・勤続 4 年 ・現場 3 年 ・同様の活動: 初めて	隊員／消防士長 ・年齢 30 歳 ・勤続 12 年 ・現場 11 年 ・同様の活動: 過去に1、2回程	
	市清掃センター粗大ゴミ処理施設 破砕機ヘルトコンベアから出火建物火災	2連アルミ梯子を伸梯し、出火建物の黒煙が噴出している2階開口部へ架梯する。		火災発生建物は地下1階地上2階で1000㎡以上ある。
		空気呼吸器を着装、筒先を持って登梯する。		装備器具の直前点検が不足。
		放水筒先補助のため、空気呼吸器を着装しBに続き、登梯する。		開口部から噴出する黒煙の多さに圧倒される。その他1名が架梯の保持確保をする。
		A、Bが2連梯子の中ほどに登梯中、Bの背負っている82空気ボンベが、突然、落下してくる。		
		顔面直撃寸前、頭を右に振り、落下ボンベを回避すると同時に左手でかろうじて受け止める。		
		放水態勢を一時中止し、2名そろって体勢を保持したまま、梯子を何とか降りる。		
		ボンベ固定部の破損・不備がないことを確認し、締めバンドを固定・ロックする。		
		再度、固定ロックを点検後、再登梯し、消火活動を行う。		

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因: 行動の実行に問題があった。 ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。 ・集中力、注意力があった。 ・避難・退避がうまくいった。 ・周囲の視界が確保できていた。 ・顔を上げ、前の登梯者を見ていたため、ボンベ落下を視認できた。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (活動環境について) ・足元が躓いたり滑りやすかった。 (その他) ・資機材の点検不足。